

2021年4月7日

コロナ禍での大会開催マニュアル【2021年度版】

一般社団法人日本サーフィン連盟

新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見えない中、大会の開催に向けて、選手、指導者、保護者や運営スタッフなど、関わる全ての皆さんが安心して参加し、サーフィンの大会を楽しんでもらうために、どのような感染拡大防止策をとるべきかの対応策をまとめました。

大会を開催するにあたっては、今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況や政府、各都道府県、開催地市町村、統括団体、協会、連盟などから発せられる情報を踏まえ、十分に熟考し判断してください。

なお、対応策が十分に行えた場合でも、その時点での感染症拡大状況に合わせて、急な予定変更が行えるよう事前のアナウンスなど準備をお願いします。また、対応策を整えるのが難しい場合は、NSA事務局へご連絡ください。

■基本的な考え方

感染拡大予防には、個人防衛、集団防衛、社会防衛の3つの見地から考える必要があり、何よりも重要なのは、発熱・咳・倦怠感などの症状を認めたら、また自分の身の回りに濃厚接触者が、或いはその可能性がある人がいる場合などは、選手・スタッフ並びに大会役員は休む勇気を持つこと、応援者にとっては会場には行かないということを浸透させることが重要です。

感染予防においては、「3つの密を避けることが重要」（密閉・密集・密接）とされていますが、「感染者或いは感染の疑いがある人を会場に入れないこと」「対面作業を減らすこと」が最大の感染拡大防止策であることを、主催者・参加者ともに理解することが肝心です。その意味で、主催者はもちろんのこと、選手・応援者の責務は重大であることを、再認識していただく必要があります。

現時点で、無症状の感染者がいることを前提にすると、いかなる対応策を講じたとしても、大会を開催することで選手やスタッフ・応援者・大会役員・家族 全ての関係者の感染リスクがあるということを常に念頭に置いてください。

■主催者として対応すべき事項

本部等に遵守すべき事項を掲示するなど、感染拡大防止の環境整備を行う。

【大会会場・競技備品類】

(1) 換気の悪い密閉空間とならないように十分な換気を行う。サーフィン自体は換気の良い環境ですが、密室となりそうなジャッジルームなどでの場合注意が必要です。

(2) ラッシュガード（ゼッケン）は各試合ごとに洗浄を行い使用する。

※洗浄方法は流水で洗う、または洗濯用洗剤と流水の併用など、実現可能な範囲でヒートごとに洗浄を行ってください。意識のためにゼッケンをキレイにすることがメインで、実際の感染伝播はゼッケン等の物品では発生しないと思われま

参照：施行例



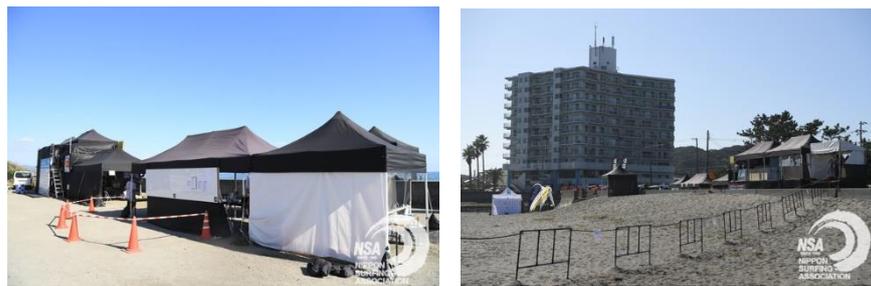
(3) 感染リスクが比較的高い施設、共用場所(トイレ・更衣室・休憩・待機スペース等)、参加者が触れると考えられる箇所・物は定期的に消毒する。

(4) アルコール等の手指消毒剤を用意し、会場の出入り口等へ配置すること。

(5) 入退時の出入り口を可能な限り分離し、人の流れの一方通行化等、人と人が交錯する機会を極力減少させる等配慮する。

※カラーコーンやロープ等で区画分けを行うのもよい。

参照：施行例



(6) 開催地域における発熱外来を行なっている病院を事前に把握しておくこと。

【運営スタッフの体調管理】

(1) 運営に関わる全てのスタッフの検温・健康確認を実施するとともに、参加者同様に入場時間診票を提出する。大会役員も参加者としての義務を遵守する。

(2) 運営に関わる全てのスタッフ1週間前より健康チェックシートの記入をし、大会当日に必ず提出をする。

【受付時の留意事項】

受付スタッフおよび参加者が密接しないようにする。

- (1) 人との対面を極力避ける構造にし、マスク・ポリ手袋を着用し、アクリル板等で遮蔽するか、フェイスシールドなどを活用するなど接触・飛沫感染を予防する。

参照：施行例



- (2) 風邪(発熱・咳等)症状のある者は、入場できないことを呼びかける。
- (3) 参加者が距離を置いて並べるように目印等を設置する。
- (4) 参加者全員を非接触型体温計で検温する。
- (5) 参加者(応援者含む)に対して、厚生労働省が推奨する感染者接触確認アプリ (COCOA) の活用を促す。

※37.0 度以上は普通体温計にて再検温を実施し、37.5 度以上は入場を拒否する。37.0 度～37.5 度未満の場合は、問診を行い、感染疑いのある者は参加を拒否する。
(参加者・応援や付き添いの人を許可するかどうかで条件は変わってきます)

【式典・表彰等】

開・閉会式などは極力実施せず、行うとしても内容の簡略化を行い、表彰は密にならないように工夫する。

【競技運営について】

- (1) 役員・チームの会場間の移動は極力避け、選手が密集しないようにする
- (2) 競技エリア内は、試合を行う選手・競技運営スタッフのみとする。
- (3) 競技エリアのレイアウトは、参加者の密集・密接な環境を避けるよう工夫する。
- (4) 選手のタオル・給水ボトルなどは、個人で管理してもらう。
- (5) 試合終了毎にラッシュガードの洗浄を行う。

※洗浄方法は流水で洗う、または洗濯用洗剤と流水の併用など、実現可能な範囲でヒートごとに洗浄を行ってください。意識のためにゼッケンをキレイにすることがメインで、実際の感染伝播はゼッケン等の物品では発生しないと思われまます。

参照：施行例



【ジャッジについて】

- (1) 会話をすることがあるので、マスクまたはフェイスシールドを着用する。また、大きな声や対面での会話は控える。
- (2) ボールペン等は、共用使用を避ける。
- (3) サイン採取時は、専用のペンや消毒等工夫をする。

【その他】

- (1) 感染対策と共に熱中症リスクにも備えること。特にマスクを着用者へはこまめな水分補給を促す。
- (2) 代表者会議は必ず実施し、感染症対策・熱中症対策について厳に徹底する。
- (3) 感染者発生時における追跡・調査を可能とするために提出された書面(参加者 記入票、問診票)については、個人情報として保管し1ヶ月を目途に適切な方法で廃棄する。

※問診票の授受といった対面作業を避けるべく、メールやLINE、グーグルフォームの活用なども推奨します。

参考 (グーグルフォーム/問診票) :

注意) 以下 QR コードは参考資料のため流用できません。グーグルフォーム使用については主催者側で回答フォーマット作成が必要になります。



※グーグルフォーム作成について (以下 URL より作成できます)

https://www.google.com/intl/ja_jp/forms/about/

- (4) 感染症管理者を選任する。管理者は感染症対策が遵守されているかを監視し、必要に応じてアナウンスや拡声器などを用いて指導を行う。またパトロールなどを実施する場合は、管理者の証となる腕章またはビブスなどを着用するとなおよい。

■参加者が遵守すべき事項 (選手・応援者の義務)

本内容を遵守できない者には、入場を拒否したり、途中退場を求めたりすることがあります。必ず本内容を参加者(応援者含む)に周知・徹底してください。

【参加者が遵守すべき事項】

- (1) 試合会場内への入場は「問診票や参加者記入票」に必要事項を記入した次の者とする。

A : 選手(本大会にエントリーした者のみ)

B : 応援者(感染症拡大状況により、大会の主催者が判断するので、それに従うこと)

※会場の入り口で大会スタッフによる検温を実施するので協力すること。

- ・検温において 37.5 度以上は入場できない。
- ・また 37.0~37.5 未満は、問診が実施され、感染リスクが高いと判断された場合は入場できない)

- (2) 大会前 2 週間前において、次に該当する者は自主的に参加を見合わせることを。
- 平熱を超える発熱、咳・のどの痛みなど風邪の症状
 - 嗅覚や味覚の異常
 - 体が重く感じる(だるさ、倦怠感)、疲れやすい、息苦しい等。
 - 新型コロナウイルス感染症の陽性者との濃厚接触が確認された場合。
 - 同居家族や身近な知人の中で感染が疑われる方がいる場合。
 - 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域への渡航又は当該在住者との濃厚接触があった場合。
- (3) マスクを持参し着用すること。
- (4) こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を頻繁に実施すること。
- (5) 他の参加者、スタッフ等との距離を確保(できるだけ 1.5m 以上)すること。また、控え場所(荷物や待機するスペース)を決め、極力決められた場所にいること。またチーム毎に消毒液等を持参し、使用の前後に控え場所の消毒を行う。
- (6) 大会開催中は大きな声で会話、応援等をしないこと。
- (7) 大会終了後、2 週間も体調管理に努め経過観察を行う。
開催後 2 週間以内に感染症による体調不良者から連絡を受けた場合、速やかに連携している医療機関に報告。対応を相談する。
- (8) 参加者が新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者にも速やかに報告すること。
- (9) その他、感染防止のために主催者が定めた措置を遵守し指示に従うこと。

【参加者が競技中に遵守すべき事項】

- (1) 競技中の集合時における密集・密接、大声の発生などは避ける。
- (2) 競技中の選手同士のハイタッチなどは控えめにする。
- (3) タオル、水ボトル等は共用しないこと(袋・カゴなどに入れ選手個々に管理のこと)。
- (4) 自分のヒートが終了後、可能であればラッシュガードは各自洗ったのち返却する。
※ (主催者側で要検討)